

PAVONE

Royal Celeb Style

[Vol.14]



歯科継続学習から 学ぶべきこと

昨年11月、カナダのトロント大学歯学部にて実施された歯科継続学習プログラムに、日本から初めて10名の歯科医師が参加しました。約1週間の滞在期間中、英語でのコミュニケーションに四苦八苦しながらも、歯科の基礎から最新の歯科治療の現状を学び、今年、トロント大学歯学部継続学習部C-DEP認定医となることができました。今号ではこのプログラムに参加された先生方にお集まりいただき、トロント大学での貴重な経験を通じて感じたことを語っていただきました。

聞き手／澤田まゆみ

(IMEDLS トロント大学歯学部継続学習部 C-DEP 日本代表事務局)



トロント大学歯学部継続学習部 C-DEP 認定医の先生方

トロント大学歯学部継続学習部C-DEP日本代表事務局

IMEDLS (アイメッズ)

International Medical & Dental Learning Society

東京都千代田区神田神保町3-7-1 ニュー九段ビル3階

TEL 03-6228-6466 FAX 03-4496-4702

http://www.zavikon.org/imedls/ お問い合わせ先: info@imedls.com

—— 簡単に自己紹介をお願いします。

中山大蔵先生 (以下敬称略) 審美歯科や

根管治療をメインに、歯科顕微鏡を取り入れた治療を行っています。根管治療とは根の部分の治療をいい、もともとは見えない部分を顕微鏡で拡大しながらきれいにしていくという治療です。これらの治療を通じて患者さんの日常に笑顔を生み出せるよう、日々取り組んでいます。

東海林正大先生 (以下敬称略) 大学を卒業してから口腔外科に3年ほどいました。

現在は父の病院で主にインプラント治療をやっています。これまで歯科に怖くて通えなかったような歯科恐怖症の患者さんに対して、静脈内鎮静法という方法も

取り入れていきます。

児玉映子先生 (以下敬称略) 審美歯科、

一般小児が中心です。特に気を配っていることは、歯科恐怖症の患者さんへの治療です。有病者のうち歯科にかかっている方は実際の2割に満たないと聞かれ、残りの8割の方は怖いといった嫌なイメージがあって行けないのです。そのような患者さんに対して、東海林先生は無痛鎮静法を取り入れていますが、私は患者さんの五感に働きかける方法を取り入れ、リラクセスしていただくことを心がけています。

瀬尾尚弘先生 (以下敬称略) 個人として

は修復とインプラントを専門にしています。クリニックでは患者さんとの関わり

り方にヘルスプロモーションという考え方を取り入れていきます。コーチングの手法により基本的にこちらからは何も与えず、患者さんご自身の意思で病気の原因や改善方法に気付いていただくようサポートしています。患者さんの自発的な行動を促し、できるだけ治療が多くなるようにすることが医院としてのコンセプトです。

矢野章先生 (以下敬称略) 私は大学を卒業

した後、歯周病科におりましたので、基本的には歯周病を専門としていました。基本の歯周病を専門としていました。歯の医院を開業して20年が経ちました。歯の治療というよりも歯を長く維持するためにすべきことを中心に考え、患者さん一人ひとりのリスクに応じた治療を行って

います。自分たちがやっている勉強会のなかで、コンピュータ支援の歯科治療を進めようとしており、CTや顕微鏡、キャドカムなどを使った診療も行っています。

継続して学習すること

——勉強会とお話に出ましたが、勉強会に参加されることは多いのでしょうか。

中山 専門誌で興味のある分野を探し、それを教えてくれる先生が勉強会を開いていたら参加することはよくあります。地方に住んでいる先生は土曜日にわざわざ病院を閉めて、土日を利用して参加されていることもあるようです。

瀬尾 同僚同士などいろいろな関係があると思います。そういうスタディーグループでお互いの意見交換や奨励の検討会を頻繁にすることで、自分に足りないことを吸収し、課題や方向性を確認しあっています。

——そんな中、どのような目的で継続学習プログラムに参加したのでしょうか。

中山 歯科医師の技術的な部分のほとんどは患者さんには分からないため、勉強を全然しなくても先生の人当たりの良さだけで多くの患者さんが来るような病院もあります。医師として自分は何を提供したいのか。患者さんには技術的なことは伝

わらないかもしれませんが、純粹にいい治療を提供したいという想いが強かったため参加しました。

瀬尾 目的としては2つあると思っています。一つは自分が解決できない問題や患者さんに自分の治療結果に喜んで欲しいから。もう一つは、歯科としての自己実現的なことで、自分がどうありたいか、どういう治療を提供したいか、という部分を満たすためです。私の場合は分からない問題を解決したいということと歯科医としての自分を実現させたいという目的で参加しました。

トロント大学について

——継続学習は様々な国で行われていますが、トロントを選ばれた理由は何ですか？

中山 私はインプラントをもう少し深く勉強したいと思ってトロント大学を選びました。トロント大学はインプラントの初めての学会が開かれた大学だったので、インプラントとの関係を期待した部分もあります。

矢野 私は中山さんとは逆で、専門的な



児玉映子先生

分野に興味があったのではなく、トロント大学の継続学習の場合、基本の部分も全科目を受けないといけないところに興味があったからです。基本を改めて全部受けてみると、「やはりこういうものが必要だった」という発見があります。そういった意味で、トロント大学の場合は全コース受けないと認定が受けられないという点がポイントになりました。

——印象に残ったことや教授は？

児玉 ライブで見た症例が素晴らしく衝撃的でした。その症例は口蓋裂の患者さんへのインプラントだったので、日本ではまだ全然そういう症例が一般化されていません。そういう症例こそが私たちがやるべきことだと認識し、とても意義深かったと思います。ジョージ・サンダー教授（前回の本誌にて紹介）は、このような症状の子どもたちの治療に力を入られ、特に印象に残っています。

東海林 私もサンダー教授の「歯科医は患者さんの歯をきれいにするだけではなく、患者さんの人生までを取り返すために治療をしなければいけない」という言

中山大蔵先生



瀬尾尚弘先生

業に感動しました。確かに、私たちは前歯一本が欠けていただけでも、気分が落ち込んでしまうものです。生まれながらに障害を背負ってきた子どもたちにインプラントが生かされ、笑顔を取り戻してあげることが本当に素晴らしいことだと思いました。

中山 ヘルスキューブという考え方を唱えている先生がいて、健康は3つの要素から成り立つと言っています。一つは身体的な健康。もう一つは精神的なもの。最後は社会性ですね。その3つの構成要素によって、その人の健康の体積というのは決まるのです。いまお話があったように、前歯が一本失われてしまうだけで、人と会ったり話したりという社会性が大きく損なわれてしまいます。つまり健康ではなくってしまおう。逆の言い方をすれば、わずかなことであっても、その人の人生を変えることもできる。サントー先生の「この子を助けるんだ」という強い意志はそういうところから生まれているんでしょうし、とても大きな刺激を受けました。



東海林正大先生

瀬尾 子どもを守ることやボランティア精神は、寄付で成り立つ病院や様々な施設が整っていることから強く感じました。また、有名なレストランのシェフがボランティアで子どもたちに食事を振る舞ったりと、いろいろな方が関わっています。そういう話は日本ではあまり聞かないですよ。だから文化の違いをとっても感じましたね。

トロントでの経験を踏まえて

—— 継続学習プログラムを受け、トロント大学の名誉同窓生となりました。今後、日本で臨床に臨む際の抱負があればお願いします。

中山 私は結構ウェブ発信を頻繁にするので、認定を受けたらすぐに自分のプロ



矢野章先生

フィール欄に加えてアップしました。そうやって出す以上は変なことをすると同窓の方に迷惑がかかるので、それなりの義務と責任を負うのかなと思っています。基礎的な部分が非常に大切だという話が出ましたが、例えばインプラントは非常に有効な処置ではありますが、あくまでもアドバンスな治療オプションです。しかし、そこにフォーカスが当たりすぎて、歯周治療などの基礎治療が疎かになっているために、インプラント治療自体の予後が悪かったり、実際に保存可能かもしれない歯が安易に抜かれているといった話も聞きます。継続学習では基礎的な点の重要性を学ぶことによって、当然のことではあります。抜かなくていい歯は抜かないというように、当たり前のことが当たり前にできるようになるという意味では、一般の患者さんにもトロントでの経験は還元されるのではないのでしょうか。

東海林 今回、継続することの重要性を強く感じました。今後も継続して勉強して、そこで学んだことを患者さんに還元



中山大蔵先生 Daizo Nakayama

1997年 東京医科歯科大学歯学部卒業。2002年に帰郷し、若手歯科医師のための勉強会CCCSを設立する。インプラントから予防歯科まで伝統と最先端医療を融合した診療は評判が高い。NLPマスタープラクティショナーや目標達成のコーチとしても活躍するなど、歯科技術だけでなく、幅広い分野で北陸の歯科界をリードする。歯科医療を通じて目指すのは「天使の笑顔」といい、笑顔が自然とこぼれてしまうような日常を歯科医療によって生み出すことを目指す。現在、北陸SJCD会長、歯科顕微鏡学会評議員、国際インプラント学会会員、日本審美歯科学会会員、米国内療法学会会員。トロント大学歯学部継続学習部C-DEP認定医。トロント大学歯学部継続学習部C-DEP、IMEDLSアドバイザー。

中山歯科医院
石川県金沢市尾張町1-10-13
TEL 076-222-2235
<http://www.ee8.jp>



東海林正大先生 Masahiro Shoji

2005年 日本大学歯学部卒業。卒業後、日本大学歯学部付属歯科病院口腔外科に所属。2008年より東海林歯科医院に勤務し、インプラントを中心とした治療を行う。これまで歯科に怖くて通うことができなかったような歯科恐怖症の患者に対して、うたた寝をしているようなリラックスした状態で治療を受けることのできる静脈内鎮静法という無痛鎮静法を治療に取り入れている。日本大学歯学部口腔外科非常勤医員、日本口腔インプラント学会会員。トロント大学歯学部継続学習部C-DEP認定医。

東海林歯科医院
東京都品川区荏原3-8-3 サンエルビル2階
TEL 0120-878-148
<http://www.shojishika.com>



児玉映子先生 Eiko Kodama

1991年 日本大学歯学部卒業。日比谷パーク歯科、児玉歯科にて勤務。2002年より医療法人愛和会のソフィア歯科クリニック分院長を務め、現在に至る。2008年からはガムセラピストアカデミーの副代表も務める。審美歯科や一般小児歯科のほか、デンタルリラクセラピーの考えを治療に導入し、五感を意識したマッサージなどにより歯科恐怖症の患者などへのリラクゼーション効果を高めるとともに、心地よい空間としての歯科医療を目指す。日本顎咬合学会認定医、UCLAインプラントアソシエーション会員、CHP研究会会員、くれない塾、和学塾卒業。トロント大学歯学部継続学習部C-DEP認定医。

医療法人社団愛和会 ソフィア歯科クリニック
神奈川県横浜市戸塚区品濃町548-2 東戸塚NSビル4階
TEL 0120-162-461
<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~sofia/>



瀬尾尚弘先生 Naohiro Seo

1995年 日本歯科大学歯学部卒業後、東京医科歯科大学専攻科。1996年から2000年まで東京や横浜で勤務した後、2001年にのいち歯科クリニックを開設する。修復とインプラントを専門とし、医療の現場にセルフプロモーションという考え方を取り入れる。健康な歯を維持するために、患者自身の健康に対する意識を高め、自発的に行動することをサポートする。ITIメンバー、CIDアクティブメンバー、北陸SJCD理事。トロント大学歯学部継続学習部C-DEP認定医。

のいち歯科クリニック
石川県石川郡野々市町本町3-9-12
TEL 076-248-3500
<http://www.nonoden.jp>



矢野章先生 Akira Yano

1986年 日本大学松戸歯学部卒業後、東京医科歯科大学歯周病科に入局、臨床と研究に携わる。一方、開業医として20年が経つ。歯周病とセラミック修復を主に扱うほか、コンピュータ支援の歯科治療を進め、CTスキャンや歯科用顕微鏡、CAD/CAM等の最新設備を備えた治療にも取り組む。ISCD (International Society of Computerized Dentistry) 国際公認トレーナー。JSCAD常任理事。トロント大学歯学部継続学習部C-DEP認定医。

矢野歯科医院
東京都調布市布田2-21-3
TEL 042-488-3351



していきたくて思っています。あと、何度か日本でもいろいろな講習会には参加してきましたが、他の先生との出会いという面で厳しいものがありました。今回初めて海外のトロント大学に、多くの素晴らしい先生と1週間一緒にいたので、学ぶことも多くて勉強になりました。

児玉 トロント大学歯学部継続学習を受けたことで、普段の臨床では出合えない症例を見たり聞いたりすることができました。症例の幅の広さだけではなく、いい治療を見ることが自分自身の診療のレベルを上げ、自分自身の臨床のモチベーションをキープするために、これからも続けていきたくて思っています。サンダー先

生など向こうの先生は患者さんの人生を考えて診療されているということで、自分自身の視野が広がった感じがします。

瀬尾 実際、日本に帰ってから臨床に反映できた点は、基礎的なことを一つひとつ積み重ねて、一人ひとりの臨床があるということを再認識できたことです。一方で、当然、技術的に腕を上げていくことはもちろん必要ですが、サンダー先生の話のように、その患者さんの人生まで考えた医療を提供していけたらいいなと思います。日本は技術的にはレベルが高いところもありますが、今後も、海外の取り組み方や文化、歯科医としての考え方などを一緒に吸収していきたくて思っています。

矢野 今回、第一期生という形で関わられたということはとても貴重な経験だったと思います。今度、ある大学院で特別講師として講義をするのですが、個人的なスキルアップだけではなく、そういう活動を通じて若い先生たちにこのような素晴らしいシステムを広めていくということも、認定医としての役割だと考えています。

今日はお忙しいなか、ありがとうございました。先生方がこれからも継続して学習していただくことは、私たち患者のためにもなります。これからもよろしくお願ひ致します。